

# 私とはなとりおどり 増岡 としひこ 利彦さん(増田)



▲安養寺にて踊りの装束で取材を受ける増岡さん



◀増岡さんから踊りを教わった中学生たちも一緒にはなとりおどりに参加

## “楽しいからこそ、伝え続けたい”

毎年旧暦の7月11日に当たる日、安養寺の境内で行われる増田のはなとりおどり。由来は諸説あり、「花賀という賊」または「花賀領主」を供養するために始まったとも伝えられるこの伝統芸能は、増田のはなとりおどり保存会に所属する地域の方々により継承されています。

現在、踊り手として参加すると同時に、子どもたちに踊りを指導している増岡 としひこ 利彦さんも保存会のメンバーの1人です。中学生の頃から踊りに参加し、25年ほどが経った今、若い世代にそれを伝える立場になった増岡さんは「今は踊り手として中学生が3人参加してくれていて、大人と一緒に練習しています。子どもたちに教えるときには、自分が教わった基本を意識して教えています」と、普段の練習の様子を語りました。

長年地域の伝統芸能に携わり続けた増岡さんは、先人たちが残した文化を伝えていくことが大切であるとした上で、「僕は何よりも、ただ自分が楽しいと思うから、好きだからはなとりおどりに参加しています。子どもたちにもその気持ちが共有できればと思います」と、地元で生まれ育っていく子どもたちのことを思いながら、笑顔を見せました。

### 編集後記

先月号の久良の能山踊り、今月号の増田のはなとりおどりと地区で受け継がれる伝統芸能を取材しました。強く感じたのは、こうした文化は地元の皆さんの強い思いに支えられて続いているということ。

人なくして文化なし。これからも、紙面を通して地元を愛する皆さんの姿をお伝えし、ふるさと愛南の文化を守っていく手助けができれば広報冥利に尽きると思います。

私が通っていた大学にもアメフト部はありましたが、敷居の高い競技というイメージを勝手に持っていました。取材で初めてアメフトを見ることができ、こんなにも面白い競技なのか！と今さら気付き、入学時の勧誘に釣られて入部しておけばよかったと少し後悔です。

アメフトの魅力に触れたサッカー少年、数年後にはボールの種類が変わっているかもしれません。

### 【県指定無形民俗文化財】 はなとりおどり[増田]

増田の安養寺境内で行われる伝統的な踊り。麻の藍染の着流しにたすきを掛け、両締めめ鉢巻を巻いた男性たちが青竹や刀、鎌などを使用して踊ります。

神聖な行事であり、結界であるしめ縄の内側には踊り手以外入ることができません。また、精進のため、踊り手は数日前から肉食を断つなどして過ごします。

### 愛南町の世帯数と人口 令和5年10月1日現在

|             |         |        |
|-------------|---------|--------|
| 世帯数         | 9,944世帯 | (-9世帯) |
| 人口          | 19,126人 | (-40人) |
| 男           | 9,055人  | (-21人) |
| 女           | 10,071人 | (-19人) |
| 愛南町の高齢化率    | 46.6%   |        |
| ※ ( ) 内は前月比 |         |        |

●10年前 同月の人口 24,125人

### 編集・発行

愛南町役場総務課 〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420 番地 電話：(0895)72-1211 FAX：(0895)72-1214

<https://www.town.ainan.ehime.jp/>